

景気の現状と今後の見通しは改善するも、厳しさ続く

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび平成28年下期（7月～12月期）の調査結果がまとまった。

全体の景気動向としては、前回調査（平成28年1月～6月期）と比較すると、景気の現状と今後の見通しは、若干改善したものの厳しい状況が続いている結果となった。

消費低迷の長期化や米国大統領の政策の影響などが懸念されている他、政府が推進している景気浮揚策の効果が限定的で地方の中小企業・小規模事業者にまで及んでおらず、鈴鹿市全体の景況について不透明感があるため、今後は横ばいもしくは悪化となると推察される。

また、地場産業の四輪自動車関連の製造業では、平成27年2月初めから地元の自動車製造工場において減産を開始（平成26年6月時点2,180台/1日→平成29年1月時点1,500台/1日）し、現在も継続中であることが今回の調査でも影響が残っていると考えられる。

(対象 1,100社 回答企業 319社、回答率 29.0%)

DI値 (ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動（強気や弱気など）を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は17.5%（前回16.3%：前年同期16.8%）、「やや悪い」「悪い」は44.1%（前回45.6%：前年同期46.6%）となった。

景気動向を示すDI値は、△26.6（前回△29.3：前年同期△29.8）と前回より2.7ポイント、前年同期より3.2ポイント改善している。

業種別では、製造業DI値△20.5（前回△13.1：前年同期△19.9）、卸売業DI値△63.7（前回△26.9：前年同期△41.1）、小売業DI値△60.4（前回△65.3：前年同期△61.8）、建設業DI値△11.4（前回△15.4：前年同期△8.6）、飲食業DI値△26.7（前年△43.5：前年同期△51.4）、サービス業DI値△35.4（前回△25.4：前年同期△27.0）となった。

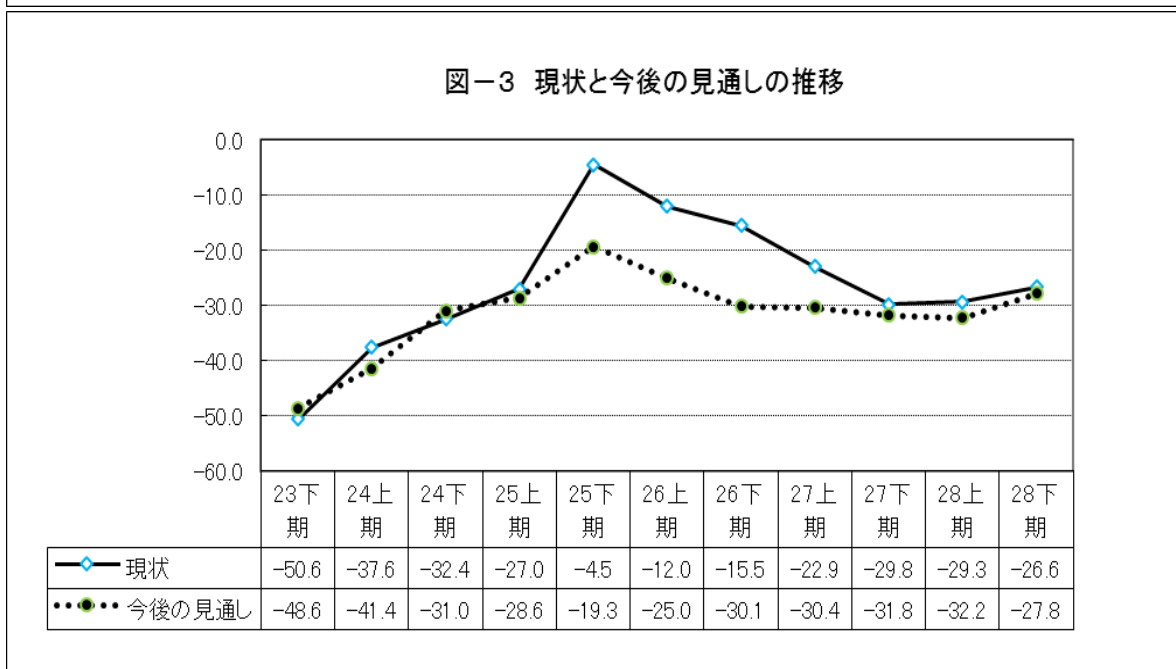
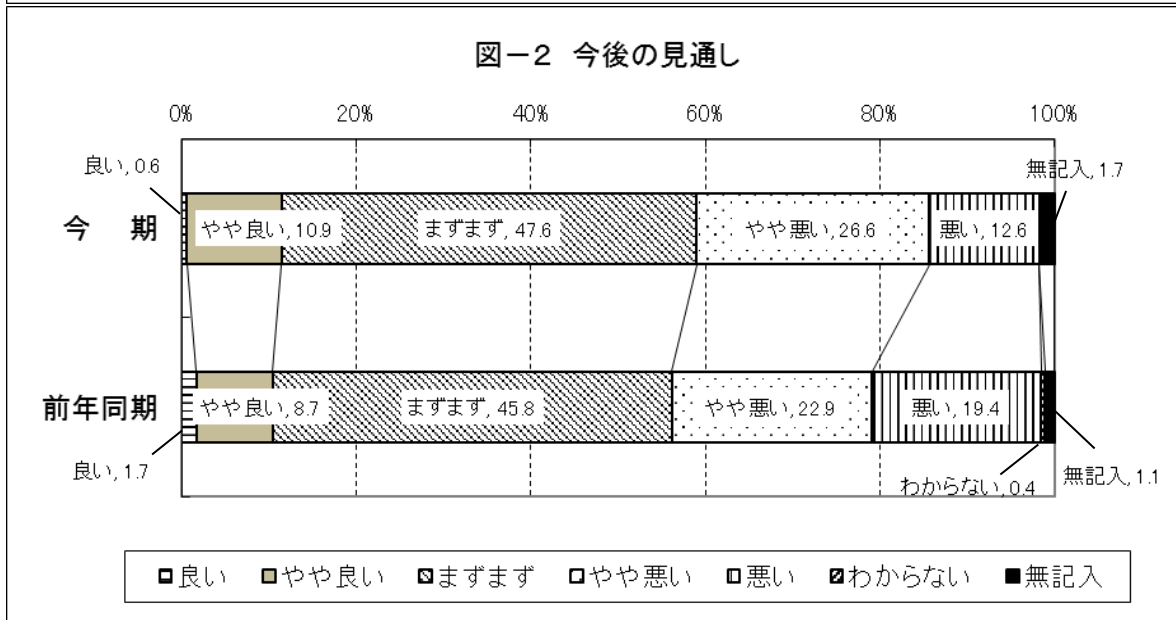
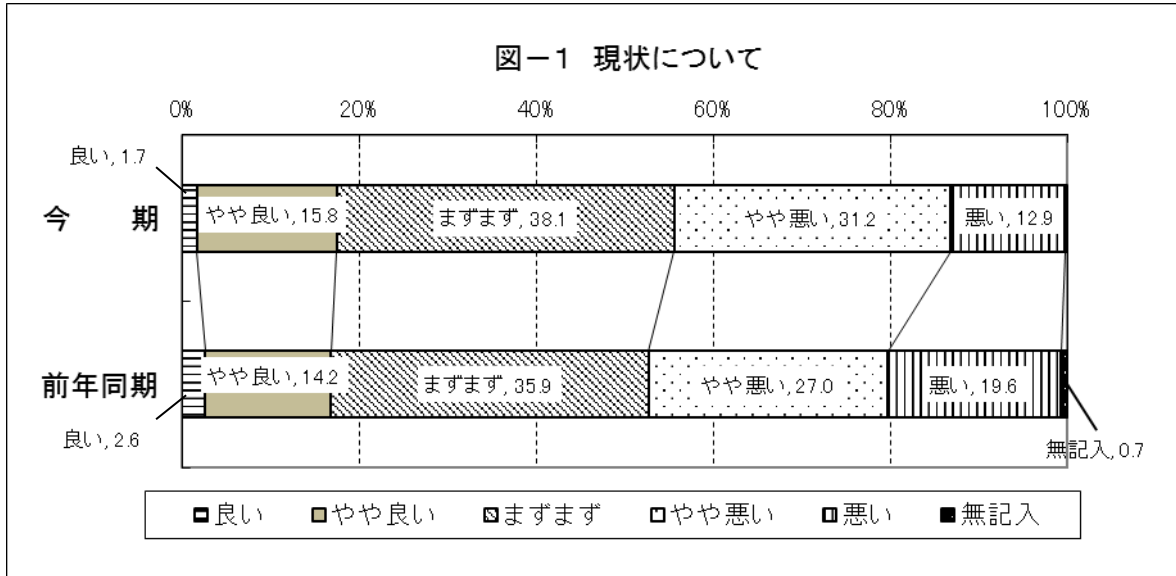
●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は、11.5%（前回11.7%：前年同期10.4%）、「やや悪い」「悪い」は39.2%（前回43.9%：前年同期42.3%）となった。

DI値は、△27.7（前回△32.2：前年同期△31.9）と前回より4.5ポイント、前年同期より4.2ポイント改善している。

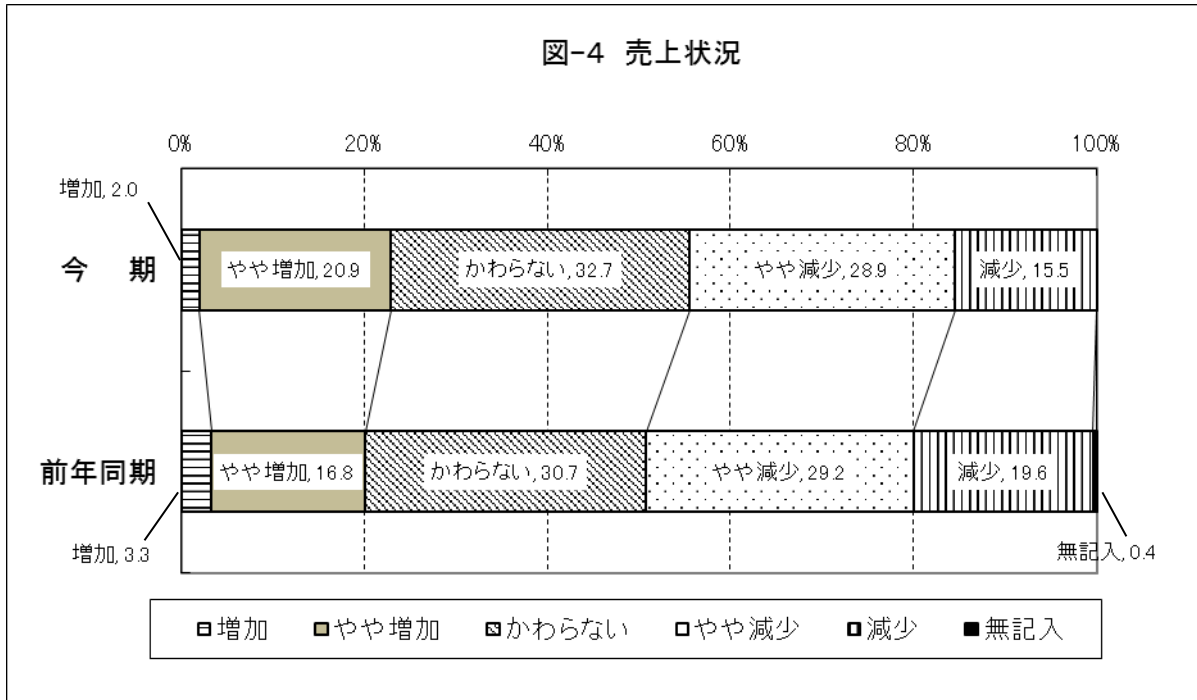
業種別では、製造業DI値△19.3（前回△24.2：前年同期△17.1）、卸売業DI値△36.4（前回△27.0：前年同期△47.0）、小売業DI値△56.6（前回△65.5：前年同期

△63.0)、建設業 DI 値△24.7 (前回△22.7 : 前年同期△21.4)、飲食業 DI 値△40.0 (前年△39.1 : 前年同期△42.9)、サービス業 DI 値△20.8 (前回△24.0 : 前年同期△27.0) となった。



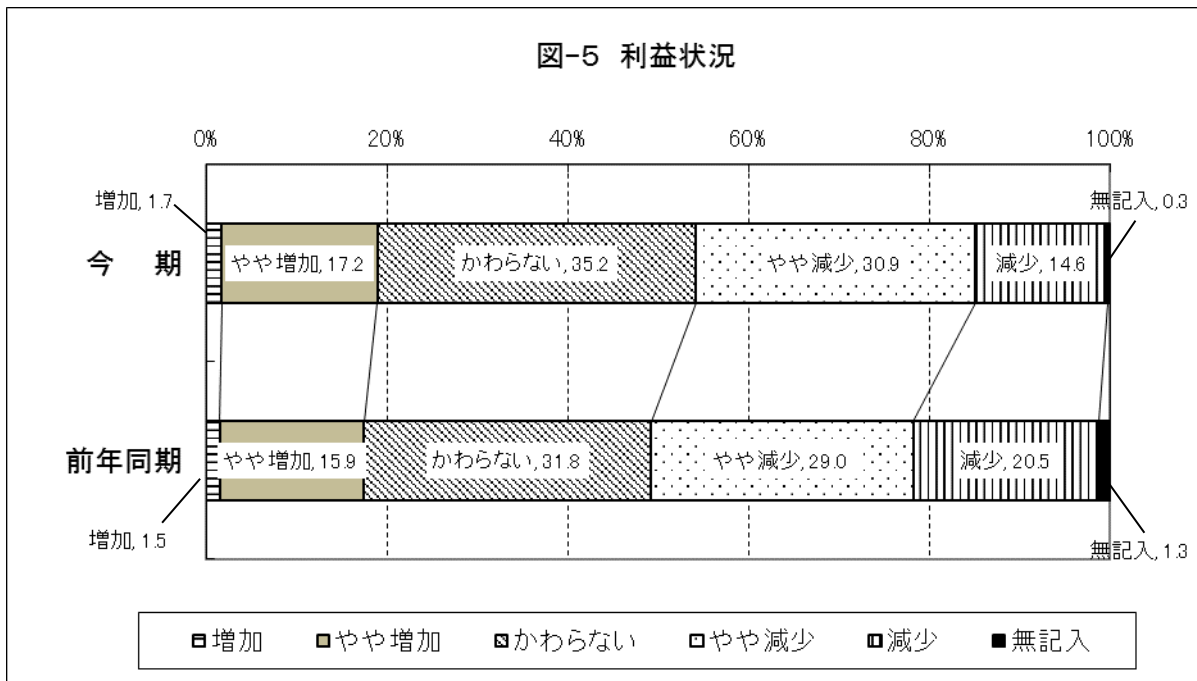
●売上状況について（図-4 参照）

「増加」「やや増加」は 22.9%（前回 18.8%：前年同期 20.1%）、「やや減少」「減少」は 44.4%（前回 46.9%：前年同期 48.8%）となった。DI 値は△21.5（前回△28.1：前年同期△28.7）と前回より 6.6 ポイント、前年同期より 7.2 ポイント改善となった。



●利益状況について（図-5 参照）

「増加」「やや増加」は 18.9%（前回 16.7%：前年同期 17.4%）、「やや減少」「減少」は 45.5%（前回 46.7%：前年同期 49.5%）となった。DI 値は△26.6（前回△30.0：前年同期△32.1）前回より 3.4 ポイント改善、前年同期より 5.5 ポイント改善している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (44.3)	人材育成 (25.0)	設備店舗の狭小老朽化 (23.9)
	卸売業	売上・受注の停滞減少 (72.7)	競争の激化 (36.4)	人件費の増加 (27.3)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (71.7)	競争の激化 (41.5)	製品・商品単価の下落 (13.2)
	建設業	人手不足 (52.2)	売上・受注の停滞減少 (44.2)	人材育成 (30.1)
	飲食業	人手不足 (40.0)	人件費以外の経費増加 原材料高及び不足 設備店舗の狭小老朽化 (26.7)	人件費の増加 競争激化 人材育成 (20.0)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 設備店舗の狭小老朽化 (35.4)	人手不足 競争激化 (27.1)	人材育成 (18.8)
	交通運輸業	人手不足 (80.0)	人件費の増加 (40.0)	売上・受注の停滞減少 製品・商品単価の 下落 借入難 人件費以外の経費増加 (20.0)
	その他	売上・受注の停滞減少 人材育成 (31.3)	製品・商品単価の下落 (25.0)	人手不足 競争激化 (18.8)
総合	売上・受注の停滞減少 (45.8)	人手不足 (32.1)	競争激化 (23.8)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (45.3)	競争の激化 (24.8)	人手不足 (23.3)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 14.3% (前回 28.1% : 前年同期 17.6%)、「やや悪い」「悪い」は 42.9% (前回 50.1% : 前年同期 47.0%) となった。DI 値は $\Delta 28.6$ (前回 $\Delta 22.0$: 前年同期 $\Delta 29.4$) 前回より 6.6 ポイント悪化、前年同期と比べ、ほぼ横ばいとなった。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 17.9% (前回 15.6% : 前年同期 11.8%)、「やや悪い」「悪い」は 35.7% (前回 40.7% : 前年同期 38.2%) となった。DI 値は $\Delta 17.8$ (前回 $\Delta 25.1$: 前年同期 $\Delta 26.4$) 前回より 7.3 ポイント、前年同期より 8.6 ポイント改善している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」は 32.1% (前回 25.0% : 前年同期 17.6%)、「やや減少」「減少」は 35.8% (前回 46.9% : 前年同期 41.2%) となった。DI 値は $\Delta 3.7$ (前回 $\Delta 21.9$: 前年同期 23.6) 前回より 18.2 ポイント、前年同期より 19.9 ポイント改善している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 25.0% (前回 18.7% : 前年同期 14.7%)、「やや減少」「減少」は 32.2% (前回 53.2% : 前年同期 29.4%) となった。DI 値は $\Delta 7.2$ (前回 $\Delta 34.5$: 前年同期 $\Delta 14.7$) 前回より 27.3 ポイント、前年同期より 7.5 ポイント改善となった。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 14.3% (前回 18.8% : 前年同期 17.6%)、「やや減少」「減少」は 50.0% (前回 46.9% : 前年同期 50.0%) となった。DI 値は $\Delta 35.7$ (前回 $\Delta 28.1$: 前年同期 $\Delta 32.4$) 前回より 7.6 ポイント、前年同期より 3.3 ポイント悪化している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 059-382-3222

FAX : 059-383-7667